

関 係 各 位

愛知県農業総合試験場長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記
令和 3 年度病害虫発生予報第 3 号 (6 月)

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室
電 話 0561-62-0085
内 線 471
ファックス 0561-63-7820

令和 3 年度病害虫発生予報第 3 号 (6 月)

令 和 3 年 6 月 1 日
愛 知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	やや多い (早い)	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並 5月に本病発生に好適な条件が 見られた (早い)	± ± +
	紋枯病	やや多い	県全域	前年の発生量は多い 6月の降水量はほぼ平年並	+ ±
	縞葉枯病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 5月下旬のヒメトビウンカの発 生量は平年並	± ±
	ニカメイガ	平年並	県全域	予察灯における誘殺数は平年並	±
	ヒメトビウン カ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	ツマグロヨコ バイ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

・ 防除対策

[イネ・いもち病]

イネいもち病は気温が20~25℃で曇雨天が続くと発生量が多くなります。例年より早く梅雨入りしたため、発生時期が早まる可能性があります。詳細は、本日発表の「イネいもち病情報第1号」を参照してください。

〔イネ・紋枯病〕

幼穂形成期から穂ばらみ期にリンバー粒剤、バリダシン液剤5などで防除しましょう。前年発生が多かったほ場では、特に注意しましょう。

・留意事項

東海、近畿地方でトビイロウンカが予察灯で誘殺されました。本県では、予察灯による誘殺は確認されていませんが、すでに飛来している可能性があります。詳細は本日発表の「ウンカ類情報第1号」を参照してください。

ムギで増殖したヒメトビウンカがイネに飛来することが考えられます。ヒメトビウンカはイネ縞葉枯ウイルスを媒介するため、本病に抵抗性を持たないイネ品種では、特にヒメトビウンカの防除に努めましょう。

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)による苗の食害が目立つほ場があります。貝の発生が多いほ場では、スクミノン、スクミンベイト3などで防除しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量はやや少ない 粘着トラップにおける誘殺数は多い	- +
ナシ	黒星病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	少ない	県全域	5月下旬の発生量は少ない	-
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒星病	平年並	県全域	4月の発病枝率は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ブドウ	べと病	やや多い (やや早い)	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒とう病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	チャノキイロ アザミウマ	平年並	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	角斑落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量は多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	円星落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い	+
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	チャバネアオカメムシの越冬成虫密度は平年並 フェロモントラップ及び予察灯における誘殺数は平年並	± ±

・防除対策

〔ウンシュウミカン・そうか病〕 〔ナシ・黒星病〕 〔モモ・せん孔細菌病〕

〔ブドウ・べと病、黒とう病〕

例年より早く梅雨入りしました。降雨による感染の拡大に注意しましょう。詳細は、本日発表の「果樹の病害情報第1号」を参照してください。

〔ウンシュウミカン・ミカンハダニ〕

トモノールSなどで防除しましょう。

〔ウンシュウミカン、ブドウ・チャノキイロアザミウマ〕

本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号」を参照してください。

〔カキ・角斑落葉病〕

ナリアWDGやベルコート水和剤などで防除しましょう。

〔カキ・うどんこ病〕

早期落葉を防ぐため、ナリアWDGやベルコート水和剤で防除しましょう。

野菜

・留意事項

例年より早く梅雨入りし、施設内が多湿になりやすく、灰色かび病等の発生が多いほ場が見られます。過剰なかん水を避け、換気を図るなど施設内が多湿にならないようにしましょう。発病果や発病葉は速やかに取り除き、薬剤防除しましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数が多い状況が続いています。防除対策等は5月21日発表の「令和3年度病虫害発生予察注意報第2号」を参照してください。

ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類が発生している施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

キャベツ等の収穫残渣はコナガの発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みま

しょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク (露地)	白さび病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±

・留意事項

アザミウマ類、ハダニ類などの害虫は、気温が高く雨が少ないと増加しやすくなります。ほ場をよく観察し、発生を確認したら早めに防除しましょう。

白さび病の被害葉は伝染源となるので、できるだけ摘除しましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）、予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台5月27日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：30% 高い：50%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%